





西へと進む



左（右側）には
土塁が続く





特別史跡境界















特別史跡 姫路城跡

左図は酒井家時代（一七四九）の初期の姫路城下の中濠以内を描いた絵図である。南部中濠は埋められ国道となっており、南東部は土塁・濠ともに取り除かれているが、他の濠・土塁石垣はほぼ原形をとどめている。

この中濠と土塁で囲まれた範囲のうち南東部の一角を除いて「特別史跡」に指定されている。（南東部長約八〇〇米、幅約一〇七米）
内濠以内には、天守閣や櫓・御殿などがあり、内濠と中濠の間は南部に家老などの屋敷地、東部から北部にかけては一般の武家屋敷地となっていた。中濠の外には町人町や寺町、足軽などの屋敷などがあり、外側に土塁と外濠を設けていた。

明治以後、中濠以内は軍用地となり、武家屋敷はとりこわされた。幸にも天守閣など姫路城はのこされ、戦災もまぬがれ、築城以来三五〇年余を経た昭和三十一年から八か年をかけ解体修理工事が行われて、往時のまゝの偉容を今日に伝えている。

姫路城の多くの建物のうち天守閣群は「国宝」に指定、同様に中濠以内の地域は武家屋敷や城門の遺構を埋蔵する重要な文化財で「特別史跡」として指定され、歴史の面影を残す公園として整備されつつある。



昭和五十九年八月

姫路市教育委員会

特別史跡 姫路城跡指定地域図

THE HISTORIC SITE OF HIMEJI CASTLE

The chart above describes the layout of the area inside the "Nakabori", or middle moat, of Himeji Castle as it appeared in the middle of the 18th century. The main tower, or donjon, the watch towers, the residence of the castle lord, and the most important offices were set up inside another moat called "Uchibori", or inner moat. The assistant lord and most warriors lived in the district between Nakabori and Uchibori. Districts outside of Nakabori were divided into areas for townspeople, Buddhist temples and lower-ranking warriors. All of these areas were surrounded by another moat called the "Sotobori", or outer moat, and an earthen wall. The warriors' residence inside Nakabori was torn down during the Meiji Era (1868-1912) so that the site could be used by the national army. The main part of Himeji Castle, comprising the donjon, watch towers and the lord's residence, escaped damage from an air raid on Himeji during World War II. After the war, the main tower (donjon) was designated as a national treasure and the unique architectural structures attached to it were specified as important cultural items. The southern part of the Nakabori moat and earthen wall were torn down to make way for the construction of Route 2, but the rest of the moat and wall are preserved as they were. The area between the Nakabori moat and earthen wall, which stretches 4,800 meters, has been named as a special historic site and an historic park is currently under construction here.

特別史跡 姫路城跡

左図は酒井家時代（一七四九—一八六八）の初期の姫路城下の中濠以内を描いた絵図である。南部中濠は埋められ国道と成っており、南東部は土塁・濠ともに取り除かれているが、他の濠・土塁石垣はほぼ原形をとどめている。

この中濠と土塁で囲まれた範囲のうち南東部の一角を除いて『特別史跡』に指定されている。（周囲延長四八〇米）
面積一〇七ha内濠以内には、天守閣や櫓・御殿などがあり、内濠と中濠の間は南部に家老などの屋敷地、東部から北部にかけては一般の武家屋敷地となっていた。中濠の外には町人町や寺町、足輕などの屋敷などがあり、外側に土塁と外濠を設けていた。

明治以後、中濠以内は軍用地となり、武家屋敷はとりこわされた。幸にも天守閣など姫路城はのこされ、戦災もまぬがれ、築城以来三五〇年余を経た昭和三十一年から八か年をかけ解体修理工事が行われて、往時のまゝの偉容を今日に伝えている。

姫路城の多くの建物のうち天守閣群は『国宝』に指定、同様に中濠以内の地域は武家屋敷や城門の遺構を埋蔵する重要な文化財で『特別史跡』として指定され、歴史の面影を残す公園として整備されつつある。











⑪の船場川からの入水



